

あれこれふあ



ICHIKAWA LIBRARY

参考業務月報

2026 年 2-3 月号

発行：市川市中央図書館 編集：レファレンスカウンター 〒272-0015 市川市鬼高 1-1-4 TEL047-320-3346

	INF	REF	こども	電話	メール	中央計	行徳	BM	南行	信篤	平田	駅南	全館計
2月	833	528	495	77	1	1,934	409	54	105	103	65	519	3,189
3月	801	469	569	102	6	1,947	424	61	150	132	62	511	3,287
累計	9,746	6,677	6,982	727	41	24,173	5,795	645	1,758	1,441	540	6,349	40,701

🔍 今月のレファレンス記録票から

分類

質問と内容

222.0 ^{ろちゅうれん} 魯仲連について知りたい。

『岩波世界人名大辞典 第2分冊 ト〜ン』（岩波書店辞典編集部／編 岩波書店 2013）p.3320 の「魯仲連」の項に、「前3世紀.中国戦国時代の政治家.斉の遊説家」との記述がある。

『新釈漢文大系 89 史記』（水沢利忠／著 明治書院 1993）p.292-316 「魯仲連鄒陽列傳第二十三 史記卷八十三」に、「魯仲連は、斉の人である。非凡ですばらしい画策を好み、仕官して職務につこうとはせず、好んで節義を持した。」とあり、漢文と書き下し文、通釈、語釈の記載があった。

377.9 第一次世界大戦後、ハイパーインフレにあえぐドイツは「レンテンマルク」という貨幣を発行することでインフレを収束させたようだ。その時代背景や「レンテンマルク」の導入から成功がわかる本を知りたい。

『貨幣の暴力』（ミシェル・アグリエッタ／[ほか] 著 井上泰夫／[ほか] 訳 法政大学出版局 1991）の p.251 「第5章 ハイパー・インフレーション」に、ドイツのハイパーインフレを対象に、ハイパーインフレの始まりから終焉までの考察がある。同書 p.301 には「レンテンマルクの発行が開始されたのは、1923 年 11 月 15 日。（中略）1 レンテンマルクは、1 金マルクと等価であった。レンテンマルクの発行保証条件はまったく特別なものであった。金マルクで価値が表示され、5%の利子をもたらすレンテン債券が、レンテンマルクの発行を保証していた。したがって、500 レンテンマルクを出せば、いつでも、500 金マルクの国債を購入できた。レンテンマルクはこのようにして金にリンクされていた。」との記載がある。

この他、『新・世界貨幣大事典』（平木啓一／著 PHP 研究所 2010）や、時代背景がわかるものとして、『ドイツ経済史』（H・モテック／ほか著 大島隆雄／ほか訳 大月書店 1989）や、当時の日記や外交資料などを基に書かれた『ハイパーインフレの悪夢』（アダム・ファーガソン／著 黒輪篤嗣／訳 桐谷知未／訳 新潮社 2011）を紹介した。

388.1 現在、新潟県阿賀町で行われている「狐の嫁入り行列」について書かれたものがあるか。

『現代怪火考』（角田義治／著 大陸書房 1979）p.71 「狐火系の怪異火」の項の中に、p.95-99 「奇祭＝津川の狐の嫁入り行列」という項目があり、津川（現・阿賀町）の狐の嫁入り祭りの誕生の経緯が詳しく書かれている。（県立所蔵）

『高速道路と自動車』（第40巻 第10号 1997年10月号 財団法人高速道路調査会 1997）p.46-48 に、この祭りに至る時代背景や、祭りの具体的な内容などの記述がある。（国会所蔵）

673 コンビニで値引きシールを貼るようになった経緯がわかる新聞記事を探している。

2020年4月1日、日経MJ（流通新聞）「ローソンFC発、見切りは正義、コンビニの未来」の記事によると、2019年8月にあるローソンのフランチャイズ加盟店が独自の判断で始めたことが分かる。見切ることで売りきり、廃棄を減らす考えだった。

2021年6月15日、日本経済新聞「ファミマ、値引き販売促進、「エコ割」来月から導入」の記事に「7月、消費期限が迫った商品の値引き販売で新しい仕組みを導入する」とあり、「本部が値引き額とバーコードを記したシールを用意し、加盟店の従業員が対象の商品に貼る」との記述がある。また同記事に、「公正取引委員会は2020年9月にファミマなどコンビニエンスストア8社に対し、値引き販売の制限などが独占禁止法違反になりうるとの見解を示した」との記述があった。

2021年8月29日、日本経済新聞「セブンも値引き自由に、公取委指摘に対応、商慣行の転換点」の記事に、「セブンイレブン・ジャパンは、売れ残り商品を店の判断で自由に値引き値引きできるようにした」とあり、ローソン、ファミリーマートに続き、セブンイレブンも値引きに対応することになったことが分かる。

773 能で謡謳をする人が扇子を持つが、その扇子は刀の代わりだと聞いたことがある。それらのことがわかる資料はあるか。

扇子が刀の代わりとして用いられるようになったことに直接触れている資料は少なく、以下の資料には武士の切腹に刀ではなく扇を用いるようになったという記述があった。『風俗辞典』（森末義彰／[ほか] 東京堂出版 1975）p.70-71「扇」の項に、「江戸中期以降、切腹に短刀のかわりに木刀や扇を用いるようになり、^{おうぎばら}扇腹の称も出来ている」とある。

『日本を知る事典』（大島建彦／[ほか]編 社会思想社 1980）p.202「扇 その他」の項に「武士の切腹の仕方の一つ扇腹では刀の代わりになる」との記載がある。

また、能による扇の扱いは流派ごとに決まりがあり、刀との関わりに触れた記述には、以下の資料にあった。『能を彩る扇の世界』（檜書店 1994）p.101「扇の役目」の項に「能の囃子方は道具を置くとき扇を腰から抜いて何処へ置くか。（中略）小鼓方の大倉流・大鼓方の高安流は扇を左脇、太鼓方は右へ置くのだが、これは“刀”の心得だという。シテの方でも、後見方は座に着くと扇を抜いて右脇に置くのが決まりだが、喜多流だけは扇を抜かず、腰に差したままだ。武家の出の流儀だけに、もともと小サ刀と扇を腰にして舞台を務めていたのであろう。」との記述がある。他に「扇と仕舞の型」として、p.93に「太刀の代わりの扇」の写真がある。

『能・狂言の基礎知識』（石井倫子／著 角川学芸出版 2009）p.229「扇・団扇」の項に「一番大事な小道具はなんといっても扇です。武士にとっての刀のようなものとも言われるように、舞台上に登場する全ての訳者が手に持つ・懷にさす・腰にさすのいずれかの形で扇を携帯しています」との記載があった。

他にもこんな質問ありました（クイック・レファレンスから）

分類	質問	⇒ 回答、補足事項、蘊蓄など
K453	小学生向けの火山が噴火する様子が載っている本はないか。	⇒『よくわかる火山のしくみ』（高橋正樹／著 誠文堂新光社 2016）、『まるごと観察富士山』（鎌田浩毅／編著 誠文堂新光社 2013）、『火山は生きている』（青木章／著 あかね書房 2005）を紹介。
E	以前借りた外国の絵本を探している。「アケオ」という女の子が主人公で、いなくなったにわたりを探しまわる話。アフリカが舞台だったようだ。	⇒キーワード等で検索し、『ハンダのめんどりさがし』（アイリーン・ブラウン／作 福本友美子／訳 光村教育図書 2007.）であることが分かった。ちなみに主人公は「ハンダ」という名前で、「アケオ」は友達の名前だった。同じ主人公が出てくる『ハンダのびっくりプレゼント』（アイリーン・ブラウン／作 福本友美子／訳 光村教育図書 2006）も併せて提供した。